

## 令和3年度 第2学期始業式 式辞

生徒の皆さんおはようございます。

今日の私の話は、大きく2つあります。コロナの話とパラリンピックの話です。といっても、コロナに関する話はこれまで何度もしてきたので、少しクイズを出します。特に2年生と3年生は昨年度私が話した内容です。私が話したことを覚えているでしょうか。1年生は初めて聞く話ですが、知っている人もいるかもしれません。皆さん、答えは心の中で教えてください。では早速、教室の担任の先生、1枚目の写真を見せてください。(野口英世の写真)

さて、この人の名前は何と言いましたか。千円札の人ですよ。

そう、野口英世博士です。

では、この人はどんな人だったのでしょうか。

感染症の研究をした人でした。梅毒という病気の病原体を発見したり、黄熱病というアフリカや中南米でよくおこる病気を研究したりするなどした人です。幼いときに火傷を負って、左手に障害を負ってしまいました。それを医師の手術によって随分よくなりました。それがきっかけになって、病気の研究者になったのでしたね。多くの人の命も救い、世界の人々からとても感謝されている人です。でも、黄熱病の研究をしているときに、その黄熱病に感染してしまい、亡くなってしまったのです。この話をしたときに私が言いたかったことの一つに、野口英世のような立派な研究者でも感染してしまうことがあるということ、私たちは誰でも感染症に感染してしまう恐れがあるから、誰かが感染症にかかっても、その人を責めたりしてはいけないということです。まして自分が感染してしまっても、ちゃんと感染症対策をしていたのなら、それは仕方のないことなので、何も気にすることはないということです。

では次の写真(ホーキング博士の写真)を教室の担任の先生お願いします。この人は誰でしょうか？

そう、イギリスのホーキング博士です。どんな人かというと、宇宙の秘密とかいろいろ研究したりして、相対性理論のアインシュタイン博士と並ぶようなすごい物理学者です。

さて、この人の言った言葉はどんな言葉だったのでしょうか。

「人生は、できることに集中することであり、できないことを悔やむことではない。」

でした。

ホーキング博士は、21歳の時に「筋萎縮性側索硬化症」(ALS)という病気を発症してしまって、どんどんからだが動かなくなっていってしまいました。それでも、車いすに乗りながら、口の筋肉も使えなくなったので人工音声装置を使うなどしながら、すごい研究をしたのです。そんな博士が、言った言葉がさきほどの「人生は、できることに集中することであり、できないことを悔やむことではない。」でした。

ホーキング博士の話で私が言いたかったのは、今皆さんはコロナでできないことがたく

さんあります。でもそれを嘆いても私たちにはどうしようもありません。嘆くよりも、できることを集中してやればすごいことができるかもしれないということです。

では、教室の担任の先生3枚目の写真（ハマト選手が口にラケットをくわえて球を打っている写真）を見せてください。

この人は、エジプトという国の卓球選手でイブラヒム・ハマトという人です。口に卓球のラケットをくわえていますね。なぜかというと、この人は10歳の時に列車事故で両腕の肘から先を失ってしまったのです。スポーツ好きの彼は、13歳の時に卓球をする友達を見ていた時に「君には卓球をプレーするのは無理だ」と言われてしまったそうです。それでも彼はそんなことはない、きっとできる、とがんばったそうです。最初は脇にラケット挟んでプレーしてみたりしたけど、うまくいかず、たどり着いたのが、口にラケットをくわえるスタイルだったのです。でも、卓球ってサーブの時に球を投げ上げないといけませんよね。両腕のないハマト選手はどうするのでしょうか。担任の先生、最後の図を見せてください。（ハマト選手が足でピン球を投げ上げている写真）

足の指でピン球を挟んで、足全体を大きく振り上げるようにしてトスを上げてサーブをするのです。そして彼は口にくわえたラケットで、いろいろな回転をかけて打つこともできるそうです。「一生懸命取り組めば、不可能なことはないと伝えたい」と彼は話しています。パラリンピックにはこのように本当にすごい人が活躍していますね。ハマト選手の言う通り、一生懸命取り組めば不可能なことはないのかもしれないかもしれません。もしかしたら今、皆さんの中にはとてもつらい思いをしている人がいるかもしれません。そんな人は特に、ぜひパラリンピックで活躍する人を見てほしい。そして、その人たちがそこにたどり着くまでの努力を想像してほしい。きっと勇気もらえるのではないかと思います。

コロナで今は不自由なことや大変なことがたくさんあります。不織布のマスクを鼻までしっかりつけて、手洗い消毒を徹底して、食事は同じ方向を向いて黙って、できるだけ人とは距離をとって、できる限りの感染症対策をしたうえで、できないことを嘆くより、できることを精一杯集中してやりましょう。

2学期は3年生にとって進路の大事な時期、2年生は修学旅行があります。1年生だって二度とない高校1年生の時期です。今のこの状況をみんなで力を合わせて何とか乗り切りましょう。終わりのないパンデミックはありません。野口英世博士もホーキング博士もハマト選手も大変な苦労はあったかもしれませんがすごいことをやっています。私たちにも、できることはたくさんあるはずですよ。以上です。